

自衛隊神奈川地方協力本部

ヨコスカサマーフェスタおよび米軍基地見学を通じて
神奈川地本カレッジ防衛モニター 片岡 初実

カレッジ防衛モニターの3度目の活動として横須賀のサマーフェスタに参加した。今回はカレッジ防衛モニターとしての参加であったがツアーに同行する形だった。

まず神奈川地本を出発し向かったのは第2術科学校だった。第2術科学校は海上自衛隊員が機関を学ぶために在籍している学校だ。ジャイロスコープや船の操縦のしくみ、エンジンの稼働の様子などを見学したが、工学系の話がほとんどだったため、文系の私にとっては内容がかなり高難度だった。しかし磁石でコイルが回るクリップモーターや海上自衛隊クイズなど、親子連れなどに人気なコーナーもあった。昼食のカレーは人気で行列ができていたため食べるのを断念したが、食べた人に聞くと美味しかったと言っていたので、私も食べればよかったと少し後悔した。昼食を終えた後に私が向かったのが海軍機関参考資料室。この資料室には旧海軍学校関連の資料が数多く展示してあった。海軍の正装や階級章、東郷平八郎や山本五十六の書などがあり、その資料の豊富さに驚いた。この海軍機関参考資料室は一般にはあまり知られていないが、資料の貴重さ、豊富さは素晴らしい。今回はあまり時間がなくゆっくり見ることができなかった。時間のあるときにじっくり見学したいと思った。

横須賀地方総監部で護衛艦「いかづち」の上甲板を見学した後、総監部から三笠公園経由で米軍基地まで歩いた。気温がとて高くじめじめしていたうえに距離が長かったので非常に疲れた。米軍基地は日本人ばかりでありアメリカの雰囲気も味わえなかった。しかし人が多くても広いと感じた。この広い空間が戦前は全て日本の海軍基地だったと思うと感慨深い。

今回のサマーフェスタで海上自衛隊のことを知ることができた。日本の自衛隊ではなく米軍の見学ができたのも貴重な経験だったと感じた。

第2術科学校スペシャルツアー

神奈川地本カレッジ防衛モニター 植田尚

私は、カレッジ防衛モニター第3回目の企画となる、海上自衛隊第2術科学校スペシャルツアーに参加しました。海上自衛隊第2術科学校は、神奈川県横須賀市田浦にあります。この場所は、明治40年、海軍水雷の教育が東京築地から移設して開始され、また、昭和5年、海軍通信を専門とする学校が海軍水雷学校から分離独立した地であり、戦後は、昭和27年、海上警備隊発足にあわせ専門教育が実施された術科教育開始の地です。更に、第2術科学校が担当する機関術科については、戦前は、東京築地に発足した後、横須賀市白浜、そして広島県江田島を経て京都府舞鶴へと3度所在を変えてきましたが、戦後は教育開始から現在に至るまで一貫して横須賀市田浦で教育を続けています。

当日は天候にも恵まれ、スペシャルツアー参加者以外にも多くの方が第2術科学校を訪れていました。当日私たちが見学したのは、電気工学コーナー、クイズコーナー、ガスタービン始動見学コーナー、たかなみ型護衛艦の機関操作練習室見学コーナーなどです。

電気工学コーナーでは小学校で習う電気の基礎から大学で習う電気工学の基礎まで幅広く解説しており、クイズコーナーでは学生の方が作ったというクイズを用いたクイズ大会が開かれていました。私もチャレンジしてきましたが、問題のレベルが高くかなり苦戦しました。

ガスタービンエンジンの見学は、まずエンジン本体の大きさに圧倒されました。遠くから見ただけでは具体的な大きさはわかりませんでした。3階建ほどの鋼鉄の円柱がそびえ立っていました。エンジンの始動は、空気を送ってエンジンを回すことで計器に異常のないことを確認する予備運転と実際に燃料を送ってエンジンを回す2工程がありました。エンジンの回転音を聞いて最初に感じた印象は「意外と小さい」です。見た時の印象から、耳をつんざくような爆音音がすると勝手に想像していたのですが、実際の音はその大きさと比較すると静かと言ってしまう程度だったと思います。工学部にいると、エンジンから出る音と言ったものはエネルギーロスであり、余計な音のないエンジンはいいエンジンだと感じました。

たかなみ型護衛艦の機関操作練習室は、実際のたかなみ型の機関操作室と同様のつくりになっているという部屋でアナログ、デジタルの計器が所狭しと並んでいました。たかなみ型という、最新のあきづき型と比較すれば一世代前ですが、元になったむらさめ型と合わせて現在の海上自衛隊の主力護衛艦というのが私の持っている印象です。そのたかなみ型の操作方法などを目の前で見ることもできるということ、私にとってこの日一番興奮したイベントでした。

これ以外にも、お昼に食べられる海上自衛隊の特製カレーや、相撲部の方々の体を張ったレクリエーションなど、見どころが数多くあり、一日いても飽きることはないイベントでした。

第2術科学校のスペシャルツアー

神奈川地本カレッジ防衛モニター 関 宏康

第3回カレッジ防衛モニターは、8月2日に開催された第2術科学校のツアーと横須賀サマーフェスタの見学。横須賀のサマーフェスタには数回行ったことがあったので、初めて訪れた第2術科学校の見学について感想を書くことにした。第2術科学校では、電気の特性に関しての講義や海上自衛隊に関してのクイズなど、様々な催し物があった。中でも「なみ型」の動力室のシミュレーション室では、実際に護衛艦を動かす際の手順などを軽い冗談を交えながら細かな解説が印象的だった。やはり、あの巨大な船を動かすためには乗組員の連携が重要であるということを感じ、また戦闘を行う船舶であるため、もしもの時のリスク管理などもきちんと考えられていることがよくわかった。

また、ガスタービンエンジンの運転も見学することができた。艦船を動かすパワースーツということで、かなりの音を予想していたが、実際には航空機のジェットエンジンよりもはるかに静かであった。

学内に併設された資料館では山本五十六元帥の短刀や空母飛龍の起工式に使用された金槌などの旧海軍の縁ある品々のほか、海上自衛隊創設の歴史についての資料などを見ることができた。創設の流れに関しては中高で学ぶ歴史にも出てくる部分であるが、そこで学ぶ以上に実際は深く、その経緯について初めて知ることが多くあった。第2術科学校のツアーは海上自衛隊の創設の歴史や士官教育においてどのようなことを行っているか、深く掘り下げて理解するのに大変良いものであった。



後列4名カレッジ防衛モニター
第2術科学校でレクチャーを受ける